産業標準作成委員会コメント対応表

日付: 2026/10/15	規格番号: **B2353**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
沖田委員	128 144	6.2 7.2	図 5 図 6		図 5、6 の記号説明は 2 か所のみですが、特に図 6 は破壊圧力試験にも使われており、安全面考えると外側のカバー？についても記載し、十分な強度が必要など何かしら説明した方が良いようにも思われます。（4 の一般要求事項、警告のところにもこれについては記載がないように思います）		ご指摘ありがとうございます。 図は ISO 通りでもあり、このままにしたいと思いますが、4 の一般要求事項で触れておきたいと考えます。 「試験の段取り及び実施は，適切な個人用保護具を使用し，適切な訓練を受けた者が行う。」を「試験の段取り及び実施は，適切な個人用保護具及び装置の安全カバーを使用し，適切な訓練を受けた者が行う。」にして，追加部分に下線を引きたいと思います。 対比表に記載する場合、a) ～e) の欄に次の記載を追加するのはいかがでしょうか？ a) 4 b) 4 c) 追加 d) 警告において，個人用保護具だけでなく，試験装置自体の安全確保を明記したいため，“装置の安全カバー”を追加した。 e) ISO 規格見直し時に変更を申し入れる。
沖田委員	231	12.2.5	図 7a) b)		図 7 は a) b)がありますが、両者の位置づけ等特に何も記載がないように思います。a)が基本で b)がオプションのように想像はできるのですが、どのような場合に b)を用いるなど何かしら記載があった方が良いようにも思いました。		このままにしたいと思います。 厳密には力のかかり方が異なるでしょうが，この場合はこのタイプと使い分けるというのものではないです。
					（平井委員長追加コメント） 確かに、規格利用者は a)と b)の関係が分からず迷うと思います。 a)と b)が対等で、どちらでも良いのでしたら、それぞれキャプションに「～の設置例１」のように、「例１」「例２」を追記するのはだめでしょ		（追加コメント検討結果） 図 7 そのものは、要求事項にはなっていませんが、ひずみゲージに対しては「図 7 に示す位置に貼付する。」となっていて、ISO も shall で記載されています。すなわち、この位置は要求事項であるため、図全体を「例」とするのは、適切ではないと考えます。

コメントタイプ:　ge = 一般的　te = 技術的　 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

産業標準作成委員会コメント対応表

日付: 2026/10/15	規格番号: **B2353**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
					うか。		b)は「任意選択」となっているので、通常は a)を用いると判断されるのではないかと思いますので、今のままにしたいと思います。

コメントタイプ:　ge = 一般的　te = 技術的　 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

産業標準作成委員会コメント対応表

日付: 2026/10/15	規格番号: **B7158-4**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
平井委員長	43～47	4.3			4.3 の消光比を場合分けする条件式において、「開口数」という量の名称が量記号として用いられています。JIS Z 8301 の式に関する細分箇条 27.5 の例 4、不適切な記載例に該当するのではないでしょうか。		ご指摘の例 4 には不等号の例はなく、今回の場合には該当しないと思います。ISO も同様の表現であり、このままで問題ないと考えます。
					（平井委員長追加コメント） 例 4 に不等号の例はありませんが、これは、27.5 の「式中では量の名称を量記号として用いてはならない」という例です。4.3 の指摘箇所は、場合分けの条件の不等「式」であり、27.5 の規定に従うべきです。ISO も同様の表現なのであれば、次の機会に修正を提案するべきです。		（追加コメント検討結果） 品管部門にも校正者にも確認して、このような場合分けにおける不等式において、量の名称を用いてはならないとは明文化されていないとのことです。ISO も同様だと思いますので、ISO に提案するような内容ではないと思われます。 ただ、ご指摘については理解しますので、量記号を使って、次のとおり修正したいと思います。 消光比は，開口数 *NA* によって，次による。測定は，対物レンズの開口数の 25 %で行う。 ― *NA*<0.5 : ― 0.5≦*NA*<0.75 : ・・・ これらの「*NA*」には、点下線を引きます（対比表への記載はしません） また、これに伴い、4.4.4 の略語として記載している「（NA）」は削除いたします。
平井委員長	58	4.4.3			4.4.3 a)において、光源の強さが「望ましい」と推奨表現になっていますが、要求表現でなくて良いのでしょうか。消光比を測定するのに不十分な強さでも良いことになってしまいます。		要求表現にすると、定量的な明るさの記載が必要になってしまうと考えました。4.4.3 e)にも関連しており、現在の記載が適切かと考えます。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

産業標準作成委員会コメント対応表

日付: 2026/10/15	規格番号: **B7158-4**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
					（平井委員長追加コメント） 要求表現であっても必ずしも定量的な閾値は記載しなくてもよいと考えます。4.4.3 e)も、要求表現でありながら定量的な感度の記載はありませんが、それで問題ありません。 現在の表現では、光源の強度が消光比を測定するのに十分でなくても良い＝「測定するのに不十分な強さでもよい」ことになってしまいます。		（追加コメント検討結果） ご指摘のとおり、要求表現にする必要がありました。「十分な強さとする。」に変更し、「とする」に点下線を引きます。 対比表には、4.4.3 を追加し、次のとおり記載いたします。 c) 変更 d) 対応国際規格では，a)の光源に対して，“十分な強さであることが望ましい”といった許容表現になっているが，十分な強さである必要があるため、この規格では要求表現に変更した。 e) 対応国際規格の見直し時に改訂を提案する。
平井委員長	64～65	4.4.3			4.4.3 e)の「消光比の限界」とは具体的に何を指すのでしょうか。4.3 で測定対象の対物レンズの開口数に応じて、要求される最低の消光比のことでしょうか。		4.3 に書かれている、最も条件の厳しい「開口数＜0.5：r_e≧12 000」になります。
					（平井委員長追加コメント） 現状では、ご回答の 12 000 を指すとは伝わりません。より明確に記述する必要があります。 また、もし仮にですが、開口数 0.5 以上の対物レンズしか測定しない場合でも、検出器のダイナミックレンジは 12 000 必要なのでしょうか。		（追加コメント検討結果） 限定的に回答してしまいました。正しくは、「4.3 に規定する開口数に応じた消光比の限界」です。すなわち、当初の質問の 2 番目の質問に対しては、「その通りです」ということになります。
平井委員長	87	4.4.4			4.4.4 の直交ニコルの測定において、「平行ニコルと等しい対物レンズの回転角度で測定することが望ましい」と推奨表現になっていますが、要求表現でなくてよいのでしょうか。測定対象の対物レンズの回転角度は、平行ニコルの場合と直交ニコルの場合で同じでなくてはいけないのではないでしょうか。		こちらは消光比算出のために条件を変えてはいけないため、推奨表現から要求表現への変更をお願いします。 修正文「直交ニコルの測定においては，平行ニコルと等しい対物レンズの回転角度で測定する。」

コメントタイプ:　ge = 一般的　te = 技術的　 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

産業標準作成委員会コメント対応表

日付:2026/10/15	規格番号: **B8419**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
平井委員長	136	5.6.2	図 3		図３の４（5/2 単動型バルブの圧力時間図）において、左側に縦に 3 つ記載されている切換時間を表す記号のうち、一番下は *t*F（切換時間（充填））ではないでしょうか。		ご指摘通りです。*t*F に修正をお願いします。
平井委員長	68 72 75 79 85	3.8 3.9 3.10 3.11 4	 表 1		間違いではないのですが、3.8～3.11 の記載順と表 1 の記載順を揃えた方が分かりやすいと思います。（今は、*T*F と *T*RE の順番が入れ替わっています。）		技術的な問題はないので、今のままにしたいと思います。
平井委員長	136	5.6.2			また、図３の記号説明における *T*E, *T*RE, *T*F, *T*RF も、利用者がカーブに沿って見る場合、*T*E, *T*RF, *T*F, *T*RE の順番ではないかと思うのですが、実際にはどのように見るのかが分からないので、単なるコメントです。		
平井委員長	266 272 277	附属書 B 附属書 B 附属書 B	図 B.1 図 B.2 図 B.3		附属書 B の図 B.1 から B.3 において、X, Y1, Y2 は量記号なので、斜体でないといけないのではないでしょうか。また、JIS Z 8301 の細分箇条 9.4.1 に、量記号は通常 1 文字で表すとあり、Y1, Y2 は別の記号が望ましいと思います。		量記号の 1 文字については「通常」なので、ISO 通りでもあり、このままにしたいと思いますが、図含め、斜体に修正してください。
沖田委員	105	5.2.2			5.2.2 「サイズに、それぞれ適切に合った」の「適切に」は不要なように思います。（サイズの話なので「合う」だけ十分に思います。ISO の記載がそうなっているのかもしれませんが....）		「適切に」は削除頂いても問題ございません。
沖田委員	315	附属書 JA	JIS と対応国際規格との対比表		付属書 JA 対応表で、対応が全て我が国の事情で ISO に提案しないことになっていますが、5.4.1 と 5.6 の上段、7.3 についてはどの部分が我が国の事情なのかがよく分かりません。 この記載だと ISO の記載が不十分なため追記したようにも読み取れますが、もしそうなら ISO へ改訂を提案することも検討頂いた方が良いように		5.6 については、軽微な修正です。このため、提案は必要ないと考えています。 5.4.1 は、圧力損失が 3%を超えるとどのような影響がでるかを記載しているが、測定方法としては不要なため削除しています。こちらも、軽微な修正のため、提案は必要ないと考えています。 7.3 は、内容に応答時間を追加しているため、我

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

産業標準作成委員会コメント対応表

日付:2026/10/15	規格番号: **B8419**	プロジェクト:

委員名※	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条※ (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメントタイプ※	コメント※	修正案	検討結果・対応案
					思いました。		が国の事情になります。対比表の d)欄を次のとおり修正した方がよいと思います。 「この JIS では応答時間についても規定しているため，応答時間を測定し，記録するよう変更した。」

コメントタイプ:　ge = 一般的　te = 技術的　 ed = 編集上

※欄（委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント）：必須入力。入力されていないと投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください（例えば、列の削除・追加、セルのマージなど）。変更した場合、投票システム（National Ballots）が適切に作動しません。